



伊東 寿充 議員

地域で守る子どもたち 地域で育てる郷土愛！

道徳の教科化について

【問】 小中学校で平成30年度から順次完全実施される道徳の教科化にあたっては、教科としての体系化はもとより、その性質上、学校、地域、親の連携を更に強化する事が、より相乗効果を高め、本質的な道徳教育の土壌構築に繋がる不可欠な要素ではないか。

【答】 子どもたちの立場にたった形での実践的な教員研修を進める等、指導の工夫改善に努めたい。また、まちづくり協議会等、様々な主体との連携を進め、学習機会の提供を促進していく。今後地域と全市的な教育関連組織との連携強化を促し、道徳心の向上、地域コミュニ

ニテイの活性化を図る。

質の高い観光まちづくりについて

【問】 全国的に好調な外国人観光客の入込は本市にとっても大変明るい材料であるが、質の高い国際観光都市を目指す上で、減少傾向にある日本人観光客の誘客促進と市内での効率的な需要分散、及び意識共有(絆や誇り、帰属意識にも繋がる)が益々必要となるのではないか。

【答】 通年型観光の促進と、支所地域への誘導も積極的に進める。また行政、事業者、子供たちも含めた住民が誇りをもつて郷土を語れるような体制づくりを本格的かつ着実に実行する。



谷村 昭次 議員

魅力あふれる 「飛驒高山」を！

まちなみ景観での地上型太陽光発電施設のあり方について

【問】 地上設置型太陽光発電施設が設置される場所について、まちなみ景観と観光・農業などの振興に対して適正に指導すべき時期であると考えるが、今後、市の特性に合わせた取り組みは。さらに市域での太陽光発電買取認可容量と接続容量割合の確認については。

【答】 景観・防災面において地上型太陽光発電施設の課題に対するルールづくりと事業者の景観配慮の必要性があると認識している。また、小規模施設についての対策を感じている。さらに平成27年10月現在、認可容量に対

する接続容量は7%程度である。

公共工事積算について

【問】 公共建築工事に係る「適正予定価格設定等の発注者責務の明確化」から、諸経費率算定根拠並びに直接工事費決定における地域と現場状況に配慮する工事発注を図る対応と今後の取り組みは。

【答】 公共建築工事積算での諸経費算定は平成26年4月から「公共建築積算基準」に準拠している。また、直接工事費算定では国が示す「営繕積算方式」に準じ、地域や現場状況の配慮から設計積算価格等を庁内で複数の者が相互確認を行うとともに、関係者と積算検討研究会を実施している。



西田 稔 議員

世界中から愛されている飛驒牛の安定供給のために！

畜産業が抱える課題とその対応について

【問】 県の「繁殖・経営担い手育成センター整備調査事業」を活用して、増頭、後継者・就農者育成を図るべき。市の考えは。

【答】 「繁殖・経営担い手育成センター整備調査事業」では県内各地域での検討会の開催や、先進的取り組みの調査を実施し、繁殖雌牛の増頭や人材の育成を図るために、その地域に適した地域モデルの策定を行う。市では、飛驒牛ブランドを守るため、繁殖雌牛の増頭対策を重要施策とし、第八次総合計画では大型繁殖牛舎の建設を計画しており、現在、生産者の代表やJAひだな

どと畜産就農者確保や経営手法等について協議を進めている。

【問】 畜産農家では家畜の糞尿の処理に困窮している。市の考えは。

【答】 市では、第八次総合計画において、集約的な堆肥舎の整備を計画しており、畜産・農業団体と協議し、飛驒牛と飛驒野菜が連携し、良質な堆肥を資源と捉えた地域循環型の産地づくりを目指す。

【問】 畜産農家はしき料不足という問題をかかえている。市の考えは。

【答】 しき料としてのお粉は燃料等新たな需要のため調達しづらくなっている。市としては市内の燃料業者に畜産農家と競合しない原料調達をお願いし、新たな供給先を探していく。